

週日の説教

金 大烈 神父 2010年10月28日(木)

《大切なのは、“イエス様に頼ること”》

ミサが始まる前に、皆様に、「なぜミサに来られたのでしょうか。」と質問させていただきました。そうしたら「与りたくて来た。」と返事をしてくださいましたね。「自分は違う。」と思われる方はいらっしゃいますか？「与りたいとは思わないけれど、癖になっているから来ている。」とか「今日は典礼の担当なので、仕方なく来ている。」という方はいらっしゃらないと私は信じています。そしてその後、「ここに来られたことも一つの大きな恵みであり、招きであるから、感謝の心をこめてミサに与りましょう。」と申しあげました。これは本当のことです。

いろいろな事情のために、ミサに与りたくても与れない人々が、この世の中にはたくさんいます。また、この日本列島にカトリックの信仰が根を下ろした後、迫害時代を迎え、命がけでミサに与ろうとした人々もたくさんいました。そういうことを考えると、「今の環境に甘えすぎていないか」と反省することも必要だと思います。

今日の福音(ルカ 6・12 - 19)は、12人の弟子たち、使徒たちを選んだイエス様の物語です。巡礼に参加された方は、ローマで、12使徒の中のヨハネの聖堂であるラテラン聖堂へ行きましたね。中に入ると何があったか、覚えていますか？ 両側に、12使徒のそれぞれの殉教の様子を表した彫刻が並んでいましたね。その12使徒たちは、何も勉強していない人、自分のことばかり主張した人、怖がってばかりいた人、他人のせいばかりした人、そのような魅力のない人たちでした。イエス様は、そのような12人を弟子として選ばれたのです。そしてその12人は、イエス様が亡くなるまで、いつも弟子らしくない姿ばかり見せてきました。しかしイエス様が復活され、聖霊が下った時から180度変わりました。そしてイスカリオテのユダ以外は全員殉教しました。その弟子たちの姿は、様々な性格で、足りないところばかりである、という点で私達の姿と重なります。しかし、イエス様は最後まで約束を守られて、彼らに殉教の栄光の冠までかぶらせてくださいました。それを考えると、才能や能力、心の形より、私達がどのくらいイエス様に頼っているかによって、結果が出るのではないかと思います。

今ここに座っていらっしゃる皆さまも様々な性格をお持ちでしょう。相手が不満を感じるような性格の人もあるし、真似をしたいと思うくらい模範的な姿を見せる方もいらっしゃるでしょう。足りないところばかりの12使徒たちが、最後までイエス様に守られた理由の一つは、いろいろな性格の違いがあっても、『彼らはイエス様に頼った、イエス様に希望を置いた』ということです。だから私たちも、満足できない自分自身かもしれませんが、「イエス様に頼る心は12使徒と変わりません」という告白のことができることが何よりも必要ではないかと思いました。結局、実らせてくださるのはイエス様であることをもう一回考えてみましょう。

今、この教会に来て4年目に入っているのですが、平日のミサに与る方々は結構増えてきています。昼間のミサは、他の教会の主日のミサよりも大勢の方が与っているのではないかと思われるくらいです。それは嬉しいことです。そのようにミサに与る人が増えているのは、自分から来られる方もいらっしゃるでしょうが、ミサに与っている人から良い刺激を受けて来られる方もいらっしゃると思います。先ほど申し上げたように、ミサに与れるのは恵みです。もし私達が手を伸ばすことで、ミサに与る人を増やすことができれば、それは美しいことではないでしょうか。

以前にも申し上げたように、この世の中で、一番強くて、美しくて、効果がある祈りはミサです。この美しい祭儀、ミサに、私達がもう少し関心を持って、いろいろな人々を誘うことができれば、ミサがもっと輝くものになると思います。

皆さま、このミサに与れること自体に感謝しましょう。そして私たちがどのくらい尊い、素晴らしい祭儀に与っているかを意識しましょう。

ありがとうございました。